

Title	配給組織構成要素を論ず
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.6 (1923. 6) ,p.848(26)- 884(62)
JaLC DOI	10.14991/001.19230601-0026
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230601-0026

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

配給組織構成要素を論ず^(註)

向井 鹿 松

(註) 本論文は後日公けにすべき余の論文「社會的労働組織として配給組織」の前半をなすものである。此に別題を附したのは雑誌編輯上の都合によるもので、文中本論題以外に及ぶ箇所あるは其爲である。

從來配給組織に關する系統的理論的研究は一般に甚だしく等閑に附せられてゐた。我國に於ても亦一般經濟學其他諸種の經濟上の問題に關しては尊敬すべき幾多の著書及び研究の在るにも拘はらず一般配給問題の理論的研究に到つては、余の寡聞なる未だ一つの代表的著作すら尙世に出でたるを聞かない、然らば從來各國に於て配給に關する系統的研究が斯の如く等閑に附せられたのは何故であるか。

此の問題は吾人一度近世經濟史を回顧せんか容易に解決し得ることが出来る

と思ふ。英國に産業上の大革命があつて、所謂工場制度が発生し近世大量生産の技術的基礎が出来たのは、早くも十八世紀の昔となつてゐる。けれども、大量生産は大量需要の存在を前提とするものであつて、此なくして大量生産は經濟上行はれ得るものではない。則ち大量需要は大量生産の經濟的基礎をなすものである。然かり而して英國に於て其大量生産を刺激し之を發達せしめたのは實に英國が近世史に於て占めた獨特の地位から生じた大量需要の發生に外ならなかつた。而して此は新らしき市場の開拓發見換言すれば市場の擴張の結果として生じたものに外ならぬのである^(一)。而して此市場擴張の結果が則ち生産技術の發達に大なる刺激を與へたものである。爾來一世紀間は人口の増加、人口の都市集中、交通機關の發達、植民地市場の開發の結果として益々大量需要起り、之に應ずる爲めに、如何にして生産を増加するかと云ふことが當時の經濟上の中心問題となつたものである。

(一) Sombart, Der Moderne Kapitalismus, III. Aufl. I. 2. Abschnitt. 6.

人類の組織的能力は必要を感じると最も大なる所に集中せられるものである。

十八九世紀に於ける如く、生産問題の解決が經濟上の緊急問題である時代に經濟的に成功するの途は即ち生産増加に成功するにある。茲に於てか有爲なる人材は何れも此生産問題解決の爲めに全能力を盡くし、市場の集約的開拓は比較的簡單に取り扱はれてゐたのであつた、而して斯の如き事情の下に於て、生産上の技術は十八九世紀に於て異常なる發達をなした。則ち種々の新らしき生産方法は發見せられ新しき動力の利用は益々大となり、新しき經濟的の組織經營方法が案出せらるゝに至つた。かの所謂科學的經營法(Scientific Management)の如きは則ち此方面に於ける長い間の努力進歩の一結晶に外ならないのである。生産技術の進歩が最も必要を感ぜられる場合に分配配給の問題は閑却せられる亦自然の現象である。然れども生産技術が異常に發達し其程度が新市場の生産貨物消化能力以上に及ぶと茲に増加した貨物を如何に分配するかと云ふ所謂配給問題が表面に表はれて其解決を要求するに到るものである。而して既に新に發見すべき新市場のない場合には配給問題の解決は則ち現存市場の集約的開拓に俟つの外はないのである。而して市場の集約的開拓とは新に各個人の需要を探知し之を喚起

し之を満足せしむるの謂に外ならぬ。換言すれば市場の^{エキステンシブ}平面的開拓から集約的ざるを得開拓に移らなくなるのである。

而して市場の配給問題をして集約的に開拓せしめんには先づ根本的に系統的に配給組織及行爲を研究しなければならぬ。則ち今や各國の企業家は其増加せる生産物を消化し又は更に其生産を擴張せんが爲に配給問題を研究しなければならぬ必要に迫られて來たのである。けれども今日配給問題が特に喧しくなつて來たのは單に以上述べた如き企業家の私經濟的見地からばかりではない、更に亦社會經濟全般の立場からして其必要が認められるに到つたのである。則ち近代に於ける物價の騰貴は配給組織の不完全から來るものである。配給組織不完全なるが故に貨物の配給費を大ならしめ以て財貨の代價を騰貴せしむるものである。而して消費者が此配給組織の不完全からして蒙る損害は生産の不完全からして彼等の蒙る損害と何等異なる所あるを見ない。此故に貨物の費用を輕減して以て代價を低廉ならしむるには配給費の減少を計らなければならぬ。而て是は亦配給組織の系統的研究に俟たなければならのである。而して又一面に

於てはかのマルクスの所謂純流通費用 (Reine Cirkulationskosten) 従つて亦流通上に於ける凡ての勞働は價值を創造するものでない。今日の商人は暴利を貪る經濟生活上の寄生虫である。今日の市場は社會主義の時代に於ては存在の理由なき制度であるといふ社會主義的議論によつて此配給問題研究の勢は益々其度を強むるに到つた。

1. Das Kapital Bd. II S. 100 ff.

1) Schäffe, Die Quintessenz des Sozialismus, 25. Aufl. S. 38 ff.

二

經濟上の中心問題が生産から分配に移る資本主義成熟の時代に於て、私經濟及び社會經濟兩方面からして配給問題を系統的に研究するの必要が起つて來たことは、以上説明した通りである。而して實際に於て、今日配給組織の問題は國によりて盛んに論議せられ、又國によりて其研究將に盛ならんとしてゐる。然れども、配給組織を全般に亘つて説明し、其組織の現代經濟生活に於ける存在の理由、換言すれば、何故に今日の經濟社會に斯かる複雑なる配給組織を必要とするかと云ふことを理論的根據を以て之に統一的説明を下した文献は甚だ少ないやうである。

思ふに今日配給問題が喧しく論ぜられるのは(一)生産及び消費が自然的事實なるに反し、商業が社會的事實であること。商業は何等價值を造らざる不生産的のもので、社會の寄生虫であると云ふ批難の存在すること。特に營利主義の原則が商業上に強く表はれること(二)並びに今日の代價の騰貴は配給組織の不完全、特に其延長に歸因するが故に之を短縮するを必要とする等の議論の存する結果である。然るに是等の問題の多く特に第二の問題は商業行爲を分析して其構成要素を知り、其職分を探究するならば之を解決するとの出來る問題である。蓋し配給費又は流通費用なるものは商業がかかる職分を行はんが爲めに行ふ行爲及び其の提供する資産に對する報酬より形成せらるゝものであつて、且つ又今日の複雑なる配給組織は商業が勞働分割(分業)及び勞働共同 (Arbeitsteilung u. Arbeitsgemeinschaft) の原則に基いて配給上の職分を分割分擔し、又は職分全體を共同して行ふ結果生じたものなるが故に外ならぬ。換言すれば現代配給組織の本體は社會的勞働の

組織である(一)。則ち余が本論に於て云はんと欲する所は現代配給組織に於ける直系組織は勞働協同の原則により、傍系組織は分業の原則により其存在の理由を存することを論斷し、而して此原則に悖る配給組織改造の失敗に終ることを暗示せんとするものである。

此故に本論の基礎として余は先づ配給費構成の要素であり、現代配給組織形成の原因たる配給行爲の要素及び其職分を論ずる(二)。

- (一) 現代資本主義的社會に於ける配給組織は資本と勞働の合成組織であるから純粹なる意味に於けるピュールの勞働組織のみで説明せられるものでないこと後述する通りである。けれども固有の配給行爲は勞働の組織のみよりなるものである。況んや資本の組織は獨り配給組織にのみ獨有の組織ならざるに於てをや。
- (二) 本號に於ては社會的勞働組織を論ずる基礎又は準備として配給行爲及び其職分を論ずるに止め、本論の發表は他日に譲る。(論題註参照)

三

販賣組織に於ける商業が直接消費者に接觸するや否やによつて卸商、小賣商となし、其商業の取扱ふ商品の種類によつて不動産、商品、貨幣及び信用商業に分ち、或

は商業行爲の國際間に亘るや否やによつて内國及外國商業に分つ等從來學者の擧げてゐる商業の分類は殆んど枚舉に違がない位である(一)。けれども之等は商業の區別であつて、商業行爲の區別又は分析ではない。従つて此種の商業の相互に異なる所は只其表面上の區別であつて、商業の實質をなす行爲の區別ではないのである。故に此種の商業の内に行なはるゝ所の行爲は皆同一の内容を有するものである。

或は商業を廣義に解し、狹義の商業の外に銀行、保險、交通等を商業なる題下に論ずるものがある(二)。而して前者を固有商業 (Eigenhandel) と稱し後者を補助商業 (Handelshilfsgewerbe) と唱ふるものがないではない。此の區別は商業の分化を研究する上に於て重要な意義を有するものであるけれども而も商業其物の外面的分類であつて商業の構成要素たる商業行爲の分類でない。否かかる補助商業の發生したのは多くの場合商業行爲中の一職分を獨立して行はんとするに基因するものであるからして、商業の研究としては尙甚深みの足らない恨みがある。現に主要商業の職分其物に付ては何等敎ゆる所がない。

(1) Philippovich-Somary, Grundriss, Bd. II, 2 Teil S. 90.

(11) Roscher Nationalökonomik des Handels.

然らば商業行爲又は職分とは果して如何なる職分を行ふ行爲であるか而して如何なる要素を必要とするか。此點に就ては從來殆んど科學的に研究せられてゐなかつた。商業行爲は商業上の行爲で一般不言の内に明かなものとして取扱はれてゐた。けれども商業行爲の内容を明かにすることは商業を科學的に研究する上に於て極めて必要なことである。蓋この問題が解釋せられるならば今日の複雑なる商業組織の真相及存在の理由が説明せられるのみならず、尙又配給費用の構成要素をもこれを發見し得ることが出来るからである。而して其配給上の職分を行ふ費用を分析する事が出来るならばやがて又小賣販賣代價が品により生産者手取代金の五割、十割、二十割時に三十割に及ぶ理由をも發見することが出来るのである。

四

斯かる意味に於て商業行爲の分析的研究を試みて有名なのは A. W. Shaw の

Some Problems of Market Distribution である(1)。氏は事業上に於ける行爲 (Business activities) に(1)生産上に於ける行爲 (The activities of production) (2)配給上に於ける行爲 (The activities of distribution) 及び(3)生産及配給上に於ける行動を援助する行爲 (The facilitating activities) の三ありとして、而して第二の配給上に於ける活動は

(1) 需要創造の行爲 (The activities of demand)

(2) 物資供給の行爲 (The activities of physical supply)

の二つからなるものとして之を説明した(11)。

(1) 氏の此の論文は Quarterly Journal of Economics for August, 1912 に出たものに更に其始めに一章を附加して一九一五年に出版したものである。

(11) Shaw, ibid. p. 7-12.

配給の要は消費者の需要を探知及び喚起し此に對して物質を給與するにある。Shaw が配給行爲を此の二つに分析したことに付ては何等異論を差し候むの餘地は存在しない。けれど配給に従事するものが斯かる活動をなすには數多の設備其他の使用資産を必要とし、特に現代資本主義の時代に在りては此の生産者より

消費者に到るに要する期間中其商品の價值に相當する資本を所有しなければならぬ。商業資本則是である。萬一商人がこの資本を有することなからんか生産者は其財貨が終局の消費者に賣却せられて代金を得る迄其經營を中止しなければならぬこととなる。則ち商品の配給期間中此種の資本を生産者又は他の商人に融通する事が現代資本主義の世の中に於て配給に従事する人のなさなければならぬ所である更に是等の資本は常に其の收支及保管等の管理を要する。而して此管理行爲は配給行爲其物ではないが然かも必ず配給に伴ひて起るべき行爲で且又其費用を構成するものである。此故に氏の所謂補助行爲の一部は配給行爲に附屬して常に起るものである。更に又其期間中には必ず配給に關聯して諸種の危險が発生する此危險を負擔するものがなければ今日の配給行爲は又事實の上に行はれ得ないものである。従つて此配給上の危險負擔も亦當然是に従事する者の負擔でなくてはならぬ。

以是觀是當今に於ける配給行爲は單に純配給行爲だけでは實現せられないものである。玆に於てか Shaw 氏は商人の職分として左の五を列舉した(註)。

一、危險の負擔

二、商品の運送

三、配給上に於ける金融

四、賣却

五、蒐集、選別及再發送

(註) Shaw Ibid. p. 76.

けれども氏は尙一つを落して居る。貯藏及其他の設備の費用是れである蓋し商品が生産者の手から消費者の手に渡る迄には永い間の期間を必要とする此期間を通して商品は常に完全なる處に存置せられなければならぬ。又販賣するに際しても一定の設備を必要とする。

是等の設備をなして商品の保管及販賣に便する亦配給を云ふ者の職分で、而して是より生ずる費用は當然亦商品の代價に附加せられて消費者に轉嫁せられるものである。而して此の説明なくして彼の所謂設備卸商の分化は説明し得られないものである。

配給行爲を科學的説明したもの、少ない中に商品の配給費用を構成する點からして配給上に於ける行爲及び要素を示して吾人に教ふる所甚だ大なるものあるはマルクス其人である。

五

マルクスの學說中に於て商業は重大なる他位を占め吾人の之より受くる教は甚だ大なるものがある。マルクスは其資本論第二卷の流通過程を論ずるに際して配給行爲を分析説明してゐる。尤も氏は配給行爲を直接分析したものではないが配給の行爲を構成する要素三個を挙げ之が商品の價值に入る可きものなりや否やを論じてゐる。けれどもこは又一面から見れば配給上に於ける行爲の分析と見ることが出来るものである。余が茲に配給と云ふのはマルクスの所謂資本の流通の内に該當するものである。而して之は次の資本循環の式によつて明かに之を知ることが出来る。

$$G-W \left(\begin{matrix} A \\ P.m. \dots \dots P. \dots \dots W/W + w \end{matrix} \right) - G(G+s)$$

此は生産者が貨幣を先づ商品(W)即ち勞働と生産資料(A/PM)に換へて生産(P)を

營み、之によつてより大なる價值を有する商品(W)を造り、之を前よりも大なる貨幣(G)に換へ、而して生産者は更に之を(W)に換へんとするものである。而して流通過程とは生産せられてから後のW及び更に此のGを以て生産資料(A)及び勞働を買ふ場合に相當するもので、生産とは嚴密に之を區別してあるのである。則ちマルクスの所謂流通過程は茲に所謂配給組織内に行はれるのである。而して此の場合Gは只Wの實現せられた結果で而して又WはPの結果に外ならない。此の故に價值の新たに創造せられたのはP即ち生産過程で、Wは同價值のもの、交換に外ならぬ。則ち商業其物は價值を造らないことを意味してゐる(一)。

(一) Das Kapital, Bd. II, Kapitel I.

此の流通には生産に於けると同じく可變資本と不變資本を要し、費用を必要とする、而して流通費用(Zirkulationskosten)としてマルクスは左の三つを挙げてゐる(1)。

一、純配給費用

購入及び販賣の時間、帳簿記入、貨幣

二、貯藏費用

三、運送費用

配給の爲めに必要な労働時間、帳簿記入の爲めに必要な机紙、インキ、ペンを要し、又流通上に於ける器具として社會に於ける富であつて而も不生産に用ひられてゐる貨幣の費用を償はなければならぬ。之等は流通上に於ける費用をなすものであるが而も新たなる價值を造るものではない。(Bd. II. S. 100ff.)

(1) Das Kapital, Bd. II, Kapitel. I.

市場に貯藏せられてゐる商品及び労働者の生活資料を適當に保管する爲めに建物其他種々の設備を必要とする。而してマルクスは此の爲めに費やされた流通費用は或る程度迄商品の價值の中に入るものだ云つてゐる(1)。吾人は茲にShaw氏が挙げなかつた一項目を配給の費用として發見する。

運送費は又流通費用を構成する。而して正しく價值を造るものであるとマルクスは云つてゐる。蓋し物の使用價值は之を消費することによつて實現せられ、而して之を消費するには場所を變更することを必要とする場合があるからであ

る(1)(2)。

(1) Bd. II, S. 107 ff.

(2) Bd. II, S. 120 ff.

(3) 商業は等一價值の交換であつて、價值を増加しないことはマルクスの價值學說の根柢から来るもので、又既に古く重農學派の主張した所である。所がJ. B. Sayは其著 *Traité d'économie politique* (p. 63 ff.) に於て交換は等一價值の交換なりと云つてゐるが、其價值の増加は交通によつて増加したものであると云つてゐる。彼が商業を生産中に論ずるものは交通と生産を同一視したものと見ることが出来る。マルクスは交通と商業とを明かに區別して、Say 其他の商業資本を生産資本となす人々を以て兩者を混同するものであると指摘してゐる。

(Das Kapital Bd. III, S. 262, Bemerkung)

包裝選別其他の行爲は特に述ぶる程重要な事項ではないが尙流通費用の一部をなすものであるとマルクスは云つてゐる (Bd. II, S. 120)

配給行爲には資本を必要とするけれども商品資本 (Warenkapital) が價值を造らないことはマルクスの學說上極めて明かなことである。彼は此の商品資本を資本論第三卷に於て論じてゐる。此點は後に商人の資本提供の職分を論ずる際に之

を譲る。

以上余は配給上に於ける費用を構成するものとしてマルクスの指摘してゐる所を挙げた。而して商業資本は價值を生ぜず純流通費用亦價值の中に加はらずとせば、商人は其資本に對して利潤を得ることが出來ないことになる。けれども此問題に答へることは本論文の範圍を出づるが、マルクスの說に従へば之等の費用は商人が生産者より買入るゝ際に安く買入れることによつて、生産者の造りたる餘剩價值の分配に預かり之が平均利潤として商人の利益となり、一般配給の費用が支拂はれると云つてゐる。

Bd. III. 1. Kapitel 16, 17.

以上余はマルクスが配給上に於ける行爲及其必要とする資本に付て説く所の大要を述べた。吾人は此の研究に依つて、商人の行爲及之に要する費用の種類を知り、此等がマルクスの學說より見て價值を増加するなりや否やを知り、且つ、後に説く如く、商業資本と生産との關係に付て大に學ぶ所がある。而も配給行爲の國民經濟上に於ける職分に付ては餘りに得る所がない。吾人マルクスの學說から

して得る所は寧ろ商業資本、特に生産と配給との關係に關する其研究である。從て余は左に以上の Shaw 及 Marx との説を綜合して商業行爲を解剖分析して其内容を確定し、以て今日の配給組織の分析的説明の準備とする。

六

現代經濟社會に於て配給行爲を完全に行はんとする者は商人たると將た又營利を目的としない、配給擔當者たるとを問はず、必ず左の三個の職分を行ふものたる事を要する

- (一) 需要及び供給を適合せしむる行爲
 - (二) 適合したる需給を現實に實行するの行爲
 - (三) 需給適合行爲に必要なとする資本を提供し、及之を管理するの行爲
 - (四) 配給經過中に生ずる危険を負擔すること
- 之である左に順次之を説明する。

需要及供給を適合せしむる行爲は更に之を二つに分たなければならぬ。

A、需要及び供給を創造する行爲

B、供給を調節する行爲

C、創造したる需要及供給の聯絡合致即ち取引行爲

前者は財貨に關する觀念を生産者及び消費者に通じ、以て需要及び供給を喚起せしむるの行爲で、其目的は生産者及び消費者の腦中に供給又は需要の意志を生ぜしむるに在る。然れども、只生産者の供給其儘では需要に合致しない、更に加工ではないが、之を適當に取捨按排しなければならぬ。斯の如くにして需供が物質的に合致し得る状態に到らば之を聯絡し合致せしめなければならぬ。換言すれば、取引を了し、現物備はり、之を實行すればよい程度にしなければならぬ。則ち第一は主として心理上の問題で、第二は企業内部に於ける經營上の問題で、第三契約又は法律上の問題である。

思ふに自給自足の經濟内に於ては生産者と消費者は同一人であるか、或は又同一經濟内にあるからして、彼等の生産する所は、則ち彼等の欲する種類、分量、品質のものであつて、又他を生産しない。従つて生産と消費との内容は正確に合致し相違を生ずることはないものである。中世都市經濟時代に於ても亦生産の大部分

は自己生産か、又は得意生産である。得意生産の場合に於ては生産者は消費者の注文を待つて造るのであるから、其生産物の種類、分量は正に實際消費する所の種類、分量であつて、其品質すらもギルド制度の下に保證せられてゐた。然るに近世市場生産が起るに及びて古の自己經濟は甚だしく衰微した。シュモラーの云ふ所によれば西部歐洲に於ける自己經濟は今日(一九〇四年)總生産の約一割六分乃至三割である(註)。茲に於てか生産者と消費者は著るしく相距だゝりて、相互又相識らず、生産者は未知の消費者のために生産し、消費者は未知の生産者の生産したものを消費する。茲に於てか生産者の財貨の種類、分量、品質は消費者の欲する所と合致しない結果を生ずる。而して國民經濟上之を合致せしむるものは即ち商業である。

(註) Cnudiss, 2 Teil, S. 41.

けれども現代の商人が之をなすや決してかかる國民經濟上の職分を行はんが爲めに商業を營むものではない。彼等の目的とする所は商業を手段として營利を目的とするにある。然らば私經濟的動機より來たれる商業は何故に國民經濟

上完全なる程度に消費と生産を合致せしむるか。之れ則ち商人が其私經濟的動機からして需要及び供給を喚起するに努むる結果に外ならぬ。

七

需要及び供給の喚起又は創造行爲は更に之を需要喚起行爲 (activities of demand creation) と供給喚起行爲 (activities of supply creation) に分つことが出来る。

需要喚起又は創造行爲とは財貨に關する觀念を消費者の腦中に通じ之を意識せしむることである。商人が之をなすには消費者の視覺に訴へるものと、聽覺に訴へるものと、視覺聽覺兩者を通してなすものとある。店舗に商品を陳列し、カタログを送り、廣告をなすは第一の方法、商人又はセールスマンが消費者を前に置いて商品の効能を諜り散らし彼等を烟に捲くは第二の方法で、眼の前に現品又はカタログを置いて効能を並べ立てるは第三の方法である。要は只其賣らんとする商品の存在を告げ、出來得可くんば之を彼等の腦中に銘刻し、そを購入するの決心を起さしむるか、又は少なくとも其商品の存在を忘れざらしむるにある。而して商人が其商品を賣らんとするに急なる、其効能書を述ぶるに際して其商品が彼等

消費者の欲する、又は彼等の欠く可からざる種類、品質にして、又彼等の欲する丈の分量を賣却するを約して只管其購買心を喚起するに努むる。之れ即ち消費者の需要が其種類分量性質に於て完全なる程度に充たされる所以である。

而して現今此の財貨に關する觀念を消費者に通じて、其需要を喚起する手段に三つある。獨立商人、セールスマン、及び廣告是である(註)。

Shaw, *ibid.*, p. 17.

此外に純然たる行爲ではないが消費者の需要を喚起するに有力なる一手段がある。則ち一定の商品が特定の工場又は特定の名ある商店の製造又は販賣にかかる旨の烙印を商品の上に押すことである。而してこは其工場名、店名又は商標を刻するが普通である。Branded goods 則ち是である。此種の販賣政策は近時一般に盛んに用ひられる所である。例之同一品質の帽子のリボン又は縁丈を多少變じて其外觀を良くし、之に店名を刻印して烙印なき普通品と區別する。而して之を普通品の代價よりも四五割高く賣却する。或は又同一品質の石鹼に店名を刻印して且つ包装を良くし以て消費者の購買心を喚起し、或は更に進んで代價を高

くし以て豊裕なる人々の收むる消費者餘剰(Consumer's surplus)を奪取せんと努むる。配給理論の上から云ふならば此烙印の方法は商品の品質に對する保證制度である。此あるが故に消費者は安心して之を買ふことが出来る。よし此爲めに高い代價を仕拂ふても、書畫骨董の賣買に際し鑑定料を支拂ひ、衛生試験場へ試験手数料を支拂ふことを是認するならば敢て不當のことではないのである。況んや一定の烙印又は商標がかかる効果を有するに到る迄には當該工場又は商店は特別の努力及び犠牲を支拂つてゐるに於てをや(註)。

(註) Marshall, Industry and trade, pp. 270-271.

けれども商人は只需要を喚起した丈では足りない、必らず其喚起した需要を満たす可き供給を得なければならぬ。若し之なければ之を生産せしめなければならぬ。蓋し今日の如く多數の而も未知の消費者に直接生産者が其生産物を一販賣することは實際に於て不可能のことである。既に生産者が消費者に直接接觸出来ない以上は生産者は多數消費者の必要とする貨物の種類品質分量を知る由がないのである。則ち今日の經濟社會に於て此の消費者の欲する財貨の觀念

を生産者に通達し之を生産せしむるものは商業である。商業がかゝる職分を盡くせばこそ工業は専ら其資本勞力を擧げて技術の方面に盡くすことが出来るのである。實に今日の商業は或る意味に於て工業を支配してゐると云つてよいのである。Encyclopédie de Commerce を書いてゐる論者は商業の第二職分(Second objet du Commerce)を以て de guider le travail d'un nombre d'autre citoyens pour donner des formes aux matieres premières に在りと云つてゐるのは極めて極端ではあるが、尤も明かに此方面に於て商業の職分を言ひ表はしたものである。(註)

(註) Sombart, Die Moderne Kapitalismus, Bd II, 1, S. 437.

Prof. Marshall曰く、

Traders not infrequently aid producers by direct hints as to customers' needs, and even by suggestions as to the methods of meeting them. (ibid., p. 279)

其例として氏は、織物工業の場合を擧げてゐる。則ち織物工場で季節相當の色々な見本を造つて置くと、商人又は其出張員は其工場に来て見本を見、自己が消費者の需要に適合すると信ずる品の製造を注文する。而して消費者の需要に合しない見本は注文を受けないから全く製造せられないことがある。而して又時に

は商人自から需要ありと信する商品の見本を造つて之が製造を工業家に注文することがある(註)。而して此事は現今の我國の織物工場に於て其儘に行はれてゐる所である。

則ち商人なる者は消費者の需要を探知して之を生産者に通じ、或は又生産者の供給を見て之に對する消費者の需要を喚起するからして、茲に生産者と消費者が現今全く未知の隔地者間に行はれてゐるにも拘はらず、而も猶兩者が正しく合致する所以である。而して既に商人が生産者に付て其供給を得れば次で如何にして之を消費者に渡す可きや其方法を講じなければならぬ。

けれども製造業者の生産したる貨物は其儘では之を需要する者の慾望を充分に満足せしむる條件を具備し居らないを普通とする。則ち生産物は其儘にしては需要者の必要とする時間的、場所的、品質上の條件を欠いて居るを普通とする。此條件を充たす爲めに商業は運搬貯藏、選別、混合、蒐集の方法を考案する必要があるのである。而して又之を實際に行ふ純技術上の行爲を必要とする。此種の考案及技術は各種職分の分立したる今日にても尙商人の重要な職分をなすもので

あるが其詳細の説明は之を純技術的行爲を述ぶる際に譲る。

(註) Shaw, *Ibid.*, p. 79

斯くの如くにして需要喚起せられ、又此需要に應ずる供給存在せば茲に需要と供給の合致、則ち兩者が結び付けられなければならぬ。換言せば賣買取引が締結せられなければならぬ。而して茲に初めて純粹の意味に於ける商業行爲、商人の職分は實行せられたのである。Prof. Marshall曰く(註)

The Chief functions of middleman generally are however those of studying the wants of consumers, and the resources of Producers, and bringing the two into connection:.....

(註) *Ibid.*, p. 278

此の需給喚起行爲と其合致行爲は昔日の所謂商人の職分の多くが獨立分離した今日でも猶依然として配給行爲の本質をなしてゐる所のものである。而して此の兩者を合し行ふものは假令他の職分を行はれるも猶且つ商人と云ふも妨げないのである。けれども現代資本主義の社會に於て此等の行爲を併せ行ふものは資本を有するものである。此故に狭い意味に於て所謂商人とは回轉資本を有

し危険を負擔して之等の行爲を併せ行ふものを云ふのである。

八

けれども需要と供給を聯絡せしむる行爲と此聯絡を現實に執行する技術上の行爲とは明かに之を區別しなければならぬ。則ち前者は一つの契約上法律上の行爲であるに反し、後者は技術上、事實上の行爲である。前者は通常商店主人、番頭、手代の行爲であるが、後者は運送店、丁稚、小僧の職分である。而して彼等の行爲は需要供給の喚起行爲には關係する所がなく、常に現實の商品を物質的に取扱ふ點に前者との相違がある。則ち商人の第一第二及び第三職分によりて決定せられたる處法に従つて商品に技術上處理するにある。前者が醫師なれば、後者は藥劑師である。此れ恐らくマーシャル教授が商人の第一職分は「需要と供給を聯絡せしむるに在り」と云つた所以で、之を實現に執行する運送其他の行爲と區別した所以であらう。

商人が財貨の供給する爲に必要な純技術上の行爲中で其主なるものは大約左の如きものである。

一、運搬。喚起せる需要と供給が場所を異にする爲めに、又は特に需要を喚起する爲めに、若しくは急速なる需供合致を必要とする爲めに、物品は豫め之を消費者の附邊に運搬して置かなければならぬのである。學者時に運送は商業に非ずなすものがある。即ち Guyot (Yves) 曰く

C'est une erreur de confondre le commerce avec l'industrie des transports: le Commerçant ne transporte pas lui-même, il fait transporter. Si un commerçant a lui-même des instruments de transport, ce n'est pas comme commerçant: il ajoute à ses affaires commerciales l'industrie des transports. (Dictionnaire du Commerce de l'industrie et de la Banque. p. 935)

けれども自家倉庫より店先へ品物を運び、又は賣りたる品を購買者の住宅へ送り届けるのが商業上の一職分であるならば、一つの店より他の店へ商品運搬する行爲が何故に商業の職分でないかと云ふ理由は存在しない。之を獨立の營業となすや否やによつて其行爲其物の性質が變ずるものでない。現に古代の商業は運送が其重要な職分の一つであつた。今日でも我國の小帆船の所有者には商業を主とし、運送を其手段とするものが甚だ多い。之が配給の一職分であり配

給の費用を構成する點に於て他の職分と何等異なる所はない。而して Bücher (K) は交通制度は分業の見地より云へば明かに商業より分岐したものであると云つてゐる(註)。其職分の分化に付ては後に説明する。

(註) Bücher, a. a. O., S. 330

財貨の運搬は其方向によつて之を二つに分つことが出来る。(一)財貨の集中的移動及び(二)其分散的移動之である。前者は原料及び食料品の工場又は中央市場に向ふ移動であつて、後者は工場又は中央市場から消費者の方向に向ふ所の移動である。此結果として配給組織は集中(購入)組織と分散販賣組織に分たれることに説く通りである。

二、包裝及び荷造。運搬に際し當然生ず可き行爲である。一種の財貨の品質分量保存の行爲である。けれども最近此の包裝は單に消極的な品質保存の動機からのみでなく、積極的に其品質の良好なる事を消費者に示さんが爲めに保存の目的以上に包裝に費用をかけるものがある。かゝる場合には包裝は單純なる技術上の行爲でなくして尙且つ需要喚起といふ前述の純商業行爲をも含むもので

ある。

三、貯藏。消費者の需要を時間的に完全に充たさんが爲めには必らず一定量を常に中央倉庫及び消費者の近くに保存してをかなければならぬ。而して保存期間の中に財貨の品質分量上の危険を防ぐ爲めに特別なる貯藏設備の外尙管理行爲を必要とする。

四、蒐集。貨物を蒐集すること亦近世商業のなす可き重要な職分である。而して此必要は購入組織及び販賣組織の兩方面に起る。則ち今日の如き大量生産の時代にありて、小經營の原料生産者が各地に散在する場合、或は現代大量生産の特徴たる商品の Standardisation を期する必要からして品質の平等なる多量の原料を要する。かかる場合には之を廣く遠隔の地から蒐集しなければならぬ。更に販賣組織の上に付て見る現代小賣商業は消費者の便宜を主として其の取扱品目を定むる結果種々雑多の商品を一店舗にて販賣することが一般に廣く行はれる。而して此等の種類を異にする多數の商品は又現代生産の特徴たる Specialisation の結果生じた數多の生産者から蒐集し來る必要があるのである。

五、品質檢定、等級選別及び混合。今日の社會には中世の社會に存在したやうな特別なる品質上の保障が存在しない。けれども品物によりては特に品質に重きを置くものがある。又現代の大量生産に於ける如く生産品の標準化の行はれてゐる所には之れに要する原料品は常に同一品質の原料を必要とする。或は又特種の財貨は之を選別するによりて種類の異なる製造品の原料となるものがある。例之繭及び家庭に生ずる屑物の如き之である。此故に商人にして選別を行はざらんか其需要者の需要を其品質及び種類の點に於て完全に充たすことが出来ない。此に於てか國によりては貨物の品質を公けに檢定すること尙米國の穀物取引の如きものがあり。又屠物問屋の如く特に選別を行ふことを重大なる職分とするものがある。而して此點に於て Brand が品質を保障する一制度なることは既に述べた所である。而して品質檢査、等級選別は配給費を構成するものであるが、時に又此の爲めに配給組織に變化を生じて全體の配給費を安くせしむることがある。

選別の反對をなすものは混合である。これ又品質の變化であつて、選別が良否

を分別することによつて同一品質のものを造らんとするに反して、混合は異なる品質のものを混合することによつて、新らしき品質のものを造り出さんとするにある。けれども商人が之をなすのは多く劣等品と上等品を混じて以て劣等品の品質を高むるにある。かの米國の中央市場に於ける穀物倉庫 (Terminal Elevator) 及び我國では米商が之を行つてゐる(註)。

(註) 米國で No. 3 Northern Wheat 一貨車と No. 1 Northern 三貨車とを混合すれば、出庫に際しては全部 No. 1 Northern の品質を得るが普通である云ふ (Wild, The Marketing of Farm Produce, pp. 36-35.)

九

交易經濟社會に於ける生産者は其生産物を直ちに貨幣に交換し、此貨幣を以て更に生産資料及び勞働を購入して生産をなして更に其生産物を賣却するものである。而して此の循環回數の早さに従ひ社會に於ける生産物は増加し、生産者は其所得を増加するの道理である。然るに現代の發達せる國民經濟に於ては生産者は未知の消費者を目標として生産するものであるから、生産者が消費者を發見して貨物を賣却し事實貨幣を受取る迄には相當の期間を必要とする。而して生

産者にして若し他に準備金を有せず又は信用を得る途がない場合には其期間生産を中止しなければならぬものである。然るに今日生産者が其生産を寸時も中止することなく生産経程を急速に繰り返し得るのは實に商業が自から商業資本を所有し之を生産者に提供するが故に外ならぬ。而して吾人が商業のAに關する職分に付て Shaw より學ぶこと多かりしと同じく、此商業資本と生産との關係に付て吾人に教ふる所多きは Marx 其人である。余は Marx 資本論第三卷より其一節を示す。

Müsse der Leinwandproducent warten, bis seine Leinwand wirklich aufgehört hat Waare zu sein, bis sie an den letzten Käufer, den produktiven oder individuellen Konsumenten übergegangen ist, so wäre sein Reproduktionsprozess unterbrochen. Oder um ihn nicht zu unterbrechen, hätte er seine Op rationen einschränken müssen, einen geringern Theil seiner Leinwand in Garn, Kohlen, Arbeit etc., kurz in die Elemente des produktiven Kapitals verwandeln und einen grössern Theil davon als Geldreserve bei sich behalten müssen, damit, während ein Theil seines Kapitals sich als Waare auf dem Markt befindet, ein anderer Theil den Produktionsprozess fortsetzen könne, so dass wenn dieser als

Waare auf dem Markt tritt, jenes in Geldform zurückfliesst. (S. 258)

生産者の資本が斯の如く二つに分たれることは商人が之に参加することによつて除去せられるものではないが、而も生産者は之が爲めに其貨幣の形式で保存する準備金の高が生産過程中の資本の高に比して甚だしく少なくなり、従て又生産高を増加することが出来るのである。同時に商人は専ら賣買の事に従事するが故に生産者は販賣に費す時を節約し、専ら生産に集中することが出来るのである(註)。

(註) Marshall, Industry & trade p. 277.

要之商人は生産者と消費者との間に在りて財貨を仲介するばかりでなく、又資本の仲介をもする、換言すれば商人は消費者全般の代りに資本を生産者に立替仕拂ひ後之を他に消費者から貨物を賣却するに應じて取り立つることを職分とするものである(註)。而して此の資本の提供及び回收は貨物に關する行爲と共に實に今日の配給行爲の中で重大なる地味を占めてゐるものである。既に資本を提供する以上は資本を所有することを前提とするは勿論である。

以上の外に尙商人は設備資本を必要とす、營業用、家屋什器、及び倉庫に投せられる資本之である。之等は共に配給行為に必要な資本であつて、共に配給費を構成する所のものである。

(註) *Beizug* は商人が資本を所有し之を消費者の爲めに立替へることによつて生産を指揮するものであると云つてゐる。(Entstehung der Volkswirtschaft, S. 329)

一〇

既に商人が自己の計算に於て消費者に代はり貨物の代金を立替支拂ひ、後之を消費者に賣却して回収する以上は商人又は商業は此間に三種の危険を負擔しなければならぬ。

第一、商人が資金を支拂ふ場合と、資金を回収する時期との間には相當長き期間を必要とする。然るに此期間内に於て財貨の代價は常に變動して已まぬ。商人は成る可く早く其の財貨を他へ賣却して其代價變動の危険を防がんとするものであるけれども常に之を期することが出来ない。

第二、商人が一定の商品を買入るゝや必らず之が需要者あるを豫期してなす

ものであるけれども、其豫想は常に正鵠を得るものでない。かゝる場合に商人は種々の手段方法を用ひて需要喚起に努むるけれども而も甚だしく代價を低減せざれば之を賣却し得ない場合が多い。

第三、商人は其商品を買却する時に其代金の支拂を將來に約することがある。換言すれば購買者に信用を與へることがある。萬一商人として購買者に過度の信用を與ふるか、或は又購買者が不時の時變にて急に支拂能力を失ふ場合には之れ亦其資金を回収することが出来ないやうになる。而して此種の危険は亦普通商人の負擔する所である。

以上余は配給組織内に於て行はるゝ行為を分析して之を説明した。今之を一見理解し易からしむる爲めに左に圖示する

配給行為構成要素

A 需供仲介に關する行為

(一) 財貨の觀念を通達する行為 (イ) 需要創造行為
(二) 供給調節行為 (ロ) 供給創造行為

(三) 需供合致行為

(四) 需供合致の純技術的行爲

B 資本の提供及之に關する行為
資本の提供及び其管理 (設備資本、同轉資本、危険の負擔)

交易經濟社會に於て生産者と消費者と分離し、其間に第三者あり、兩者を聯絡せんとするには必らずや以上の行爲及び資本を必要とするものであるが、而も分業の行はるゝ今日の商業が以上凡ての職分を自ら行ふものではない。けれどもA需給仲介行爲に關する行爲特に一、二、三は凡ての獨立商業の行ふ所で、蓋し配給行爲の本質的職分をなすものである。従つて此種職分の分離は經濟組織の上に重大なる影響を及ぼすものであつて、亦余が配給組織は勞働の組織と云ふ所以である。

原始基督教と社會問題(下)

高橋 誠 一 郎

四

神の國(Reich)は人間の全社會的生活を包含する集合的概念である。神の國は個人の心胸内に興起する。イエスの教旨は著しく個人主義的であつた。それは個人に訴ふるものであり、個人が正しく行動するの時、此の世は變革せらる可しと倣すの推定より出發するものである。而も事は人間の原子を救助するに存せずして、社會的有機體を濟度するに在る。問題は個人をして天國に入らしむるに非ずして、地上の生活を改造して天國と一致せしむるにある。個人をして協同的生活に向はしむるものは精神若しくは心意の態度である。彼れが公正なる社會を建設するが爲めに精神的の力に依頼せるは、偏へに彼れが社會建設者としての聰明を明かにするものである。彼れが最小なる社會的核心に就いて其の事業を開